

同窓会会報

第47号

平成3年7月5日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL 0292-59-2811
振替口座 字都宮3-1632番
印刷所
佐藤印刷株式会社

農民教育協会池田理事長逝去さる

池田理事長は、昨年十二月以来体調を崩され東京都虎ノ門病院に入院加療中でしたが、さる五月二十五日午後六時三十九分呼吸不全のため逝去されました。享年七十九歳でした。

二十九日には池田家による密葬が、中野区の宝仙寺で執り行なわれ、学園長以下の運営会議メンバーが参列焼香してきました。

池田家と全国農業会議所・日本農村情報システム協会・全国農業構造改善協会・農民教育協会等の合同葬は、青山斎場で七月八日(月)午後一時～二時三十分、二時～三時に告別式が執り行

われることになりました。

池田理事長は、長いこと農民教育協会の理事として、東畑会長、湯川理事長、山添理事長を支え、昭和五十六年から池田理事長として岩持会長、堀内会長を支え鯉淵学園の運営に多大の力を注がれてこられました。農業の将来が不透明なこの時期に理事長を亡くしたことは、鯉淵学園にとって大変な痛手ですが、これまでのご功績に感謝しつつご冥福をお祈りし、理事長の農民教育のご意思を待し、学園教育を更に展開したいと職員一同肝に命じているところであります。(坪野敏美)

学園の発展に英知を集めよう

鯉淵学園同窓会会長 渡 辺 正 信

暑中お見舞申し上げます。

会員の皆様にはますます御清栄にて

ご活躍のこととお慶び申し上げます。

学園は創立以来日本農業の柱であり

ます人材の育成に、大きな貢献をして

参りました。同窓会名簿は年々厚みを

加え、年次を繰っていくに従い、農業界のみならず各分野で雄飛して、学園の名を高からしめている人は枚挙に暇がなく、在学生の刺激になっています。ことを誇りに思っています。

いま日本農業は米の貿易自由化の圧力により厳しさが増しています。この時こそ積極果敢な在村指導者を育成してきた学園の重要性を社会に強調しなければなりません。しかるに、新入生の応募状況は定員割れとなっており、今後高校卒業生数の減少により、大学冬の時代が到来し、魅力のない大学は廃校に迫られると予想されています。

我が学園も、現状維持では衰退を待つのみでありますので、二十一世紀に向けた新しい構想を樹立し、農業の国際化に対応する農業者、地域リーダーの育成を図らねばなりません。同窓会としては、協会及び学園当局に働きかけ乍ら、将来構想の素案作成を進めて参りますが、それと共に、四年後に訪れます創立五十周年を、飛躍への年と位置づけるべく、記念事業計画案作成委員会を関東近県から委員の推せんを得まして、五月十八日第一回会合を開催いたしました。九月までには計画案を本部に上提頂き、常任委員会で審議

した上で、十一月三日の第二十回総会で御討議願ひ、立派な記念事業としてと願っている次第であります。どうか皆様も、学園の将来のために御意見を、お寄せ下さいます様お願い申し上げます。

けます。去る四月の協会理事会において、創立五十周年記念事業と、将来構想樹立計画案作成を提案いたしました。何卒会員皆様の御支援を心からお願い申し上げます。

幸い皆様の御支援により、会費の納入が今期の目標を大きく上回っております。厚く御礼申し上げます。皆様の御期待に添うべく頑張つて参りますが分取林の管理は役員だけでは一部分しか手入れが届きません。若木のいまが最も重要です。この時期に充分な手入れをしないと、雑草・灌木に覆われて駄目になってしまいます。来る七月二十七日に草刈りを実施いたしますので、何卒近県の皆様にはご協力をお願い申し上げます。

学園の発展と会員の栄達繁栄こそ、誇りであり、私達の幸せの源です。支部を強化し、扶け合い励ましあつて栄えましょう。

故・池田斉理事長を哀悼

学園にとって、極めて重要なときに、学園創立以来、農民教育協会の理事として理事長として長いあいだ困難な学園運営を担って、今日まで守り育てて下さいました。まことに痛恨のきわみであります。

ここに御生前のご功績を讃え、深く哀悼の意を表します。

七月八日(月)青山斎場に於て午後より本葬が行われる。

平成四年度 学生募集の協力依頼

教務部長 安藤義道

一、鯉洲学園のよき

この三月に普及専攻科を卒業したある学生の文章である。

私は今から四年前に学園に入学した。学園の特徴は、北は北海道から南は沖縄まで全国各地からの学生が寮の中で生活している。入学当時私は、学園の全寮制がはつきりいって嫌だった。なぜならば、洗濯も自分でしなくてはいけないし、色々の面で家にいるよりも自由にならないことが沢山あったからだ。

しかし、私は学園に入学し、今では本当に良かったと思っている。それは、全寮制で全国各地から生徒が来ているので、他県の話が色々聞けて、家にいた時より楽しいし、知識も話をしているうちに身についてくるからである。また、自分がわからない時は寮なので何人かで協力してできるし、協調性を身につけることもできた。

私が学園で学んで四年前の自分と変化してきていることは、まず、自主性が身についたことである。なぜならば、学園の自治会の中で活動してきたからだと思う。さらに、私は高校の時まで

は文章を書くのが苦手であったが、学園で学んだことによって少しは文章能力がついたと実感している。

また、学園のカリキュラムの中に含まれている農場実習は、肉体的には嫌であったが、ただ労働をするのではなく、園芸および畜産の知識、視野が広がり、入学前の自分よりも農業の現状および問題がわかるようになった。

二、増えた卒業生の推薦

この卒業生の言葉に象徴されるように、学園キャンパス暮らしの意味は卒業生の皆さんにとって大きかったと思います。

そのことを裏づけるように、近年入学者の中に卒業生の紹介による学生たちが増えてきています。例えば、今年の新入生の場合、全体の29・2パーセントが卒業生紹介で占められました。もちろんトップで、二番目の新聞広告によるもの24・6パーセントを5パーセントほど上まわりました。

卒業生紹介も大変幅が広く、現在兄弟在学中が二組ありますが、このような兄弟姉妹関係や親子関係、叔父(母)と甥(姪)の関係、さらに、今年第1号

として祖父と孫の関係で入学してきた新入生もありました。ここまでくると本当に学園の歴史も半世紀を過ぎんとしていることが実感として伝わってきます。

三、推薦入学制度・優先入学制度

このような実態をふまえて、今年から高等学校推薦入学制度と卒業生関係者優先入学制度を採用することになりました。詳細は別途入学生募集要項を見ていただきたいと思いますが、これまで多数(この五ヶ年間を目安に)の学生を推薦して下さった高等学校には推薦入学制度を適用し、卒業生の皆さんには関係者の優先入学制度を適用して、早くに合否結果がわかるように配慮しようというものです。

卒業生の皆さんにはこの制度をぜひご利用頂きたいと念願しております。

四、新しい教育の構築

平成二年度に国庫助成金で生物工学実習施設が建設されましたが、今年度には畜産加工実習施設の建設も決まっています。

文字どおりバイオテクノロジーの実験、実習教育を今年度から一層の充実をはかり、また、ただ生産するだけではなく、加工から販売までを手がける現代の農業や農村生活にマッチした人材を育てる力にこれらの施設がなってくれるものと期待しております。一方、その販売実習まで体験できるように、現在カリキュラムの検討や農場の生産

計画、さらに新しい購買運営のあり方も次々と検討されています。

かざられた数の教職員ですので、完全な形でこれらの施設の活用や実験・実習のきりもりはできませんが、伝統的な師弟同行、ヒューマニティを基調とした科学的な考え方と積極的な実践力をもって教育成果を向上させてまいりたいと考えています。よろしくお願いたします。

また、学園教育への注文等ごさいましたら教務部あてにご連絡下さい。

五、平成四年度本科学生募集要項

募集人員

本科(三年生)

- ① 農業科 八〇名
- ② 生活栄養科 四〇名

(2) 出願手続

出願者は下記書類に選考料を添えて鯉洲学園教務部に提出すること。

- ① 入学調書
- ② 身上調書

(平成四年三月卒業予定者は高校発行のものでもよい)

- ③ 健康診断書
- ④ 課題による作文
- ⑤ 高等学校の調査書(特に各科目の評定、学習成績概評、成績段階別人数、所属する科(学年)の総学生数、行動および正確の記録等を明確に記入すること。)
- ⑥ 現住地の市町村または農業共同組合長などより、家庭の事情や本人

の将来の希望などを含めて推薦を得たものはその推薦書。

⑦選考料 二五、〇〇〇円（現金または為替にして送金のこと）

※①②③④は本学園所定の用紙を使用のこと。

(3) 願書受付期間 平成三年十一月二十一日(休)より平成四年二月二十(休)当日の消印あるものは有効)までの期間。

(4) 選考・発表 願書の受付締切後、書類について選考し、結果を二月二十八日(金)に発表する。

(5) 備考 学園要覧・願書など所定用紙の請求は、鯉淵学園教務部または農民教育協会に問い合わせること。

六、鯉淵学園優先入学案内
(1) 入学定員 農業科 作物・園芸コース、畜産コース合わせて定員の約10%

(2) 推薦条件 ・生活栄養科 定員の約10%
ア 平成四年三月高等学校卒業見込者及び平成三年三月高等学校卒業者のうち学力人物について本学教職員ならびに同窓会関係者が推薦する者。

イ 学力は、高等学校調査書の概評がC段階以上の者で、全科目平均が3.0以上、2以下の科目が3つを

超えない者。右記ア、イの条件の他、次の各料の推薦基準を満たす者とする。

(3) 推薦入学基準
①農業科
ア 農業の後継者たらんとする者。
イ 農業関連産業の後継者、農業の指導者あるいは技術者たらんとする者。

ウ 国語、生物の素養をもち、社会に貢献できる人物。
②生活栄養科
ア 農業の後継者。
イ 農村生活の指導者あるいは栄養士。

ウ 食糧と栄養の諸問題に強い興味や関心を持ち、将来この方面での社会活動を熱望する人物。

(4) 出願手続き 十一月一日(金)～九日(出)

(5) 合格通知 十一月三〇日(出)

(6) 入学通知 十二月十日(火)～十六日(月)

同窓会大会開催
期日 十一月三日
時間 午後一～四時
場所 鯉淵学園 五番教室
議題、懇親会、宿泊等の詳細は、九月の会報特集で連絡します。

分収林の管理について

分収林の管理は、前号で報告しましたように、農学を学んだ私達の手で一度やってみようということで、昨年七月二十八日会長以下八名で出掛け、蜂に刺されながら悪戦苦闘してきましたが、営林署の管理は必ずしも十分でなく、やはり俺達が頑張らなくては駄目だということになり、この四月二十七日渡辺会長、福丸副会長(東京)、本田常任委員(栃木)、茨城支部から岩持支部長、増山幹事、学園から西村、工藤、佐藤教授と坪野の九名で行ってきました。草はまだ伸びておらず、主たる作業は下枝打ちと雑木退治になりました。天気恵まれお昼のビールの効果があつて、予想外の成果が上がりました。しかし終って全体を眺めてみると、何と虫食い程度しか出来ておらず、これは容易なことではないなとも思いましたが、労働の後の気分が誠に爽快であつたことから、この素晴らしい気分をもつと大勢の運動不足の卒業生に味わってもらおうと次回を計画致しました。

用具 学園で準備しますが、得意な林の下草刈り用具をお持ち下さればなお幸いです。

連絡 七月二〇日必着
集合場所、自家用車か列車か、用具のあるなしの別も明示下さい。

旅費実費、昼食、飲物は事務局で準備致します。前日に来て同窓会館に泊まれる場合、当日泊まれる場合はご連絡下さい。欲待致します。

関東一円、特に茨城県支部の皆さんの参加ご協力をお待ちしております。

(事務局長 坪野)

学園 八時二〇分
常磐線小木津駅 九時
(日立の次)
解散 現地 午後四時



お待たせしました!

沖縄県支部結成

事務局長 宮城 隆

かねてから、同窓生、集まっては支部結成の再構築が話題となりつつ今日まで長引きましたが、この度先輩有志の賛同、激励もあつてやっと再構築することができました。ここによりこびをかねてご報告いたします。

平成三年四月二十七日沖縄県青年会館にて同窓生五八人(名簿による県内出身者は一三五人)が集まって新たに鯉洲学園同窓会沖縄県支部が結成されました。会議は会則を設定し、役員を選任及び事務局の選出を行い懇親会へとなごやかに進行了しました。特に会則では県内居住者をもって組織し、支部の名前を「鯉洲学園沖縄支部同窓会」として、又、定例総会を毎年四月に開催、支部会費及び同窓会費(本部)の完納を決めるなど又、県農水部専門技術員二期の喜久山守良氏の「沖縄で作る楽しい家庭菜園」出版祝賀会もあわせておこなわれるなどユニークなものになりました。

役員は、以下のとおりです。

- 会長 一五期 宮平 林一郎
- 副会長 一七期 東田盛 正
- 監事 一六期 宮城 勝 茂
- 一九期 新垣 盛 光

南部支部長 一九期

島袋 清子

中部支部長 二二期

徳田 有弘

北部支部長 三〇期

前田 実

久米島支部長 三二期

大田 治雄

宮古支部長 二〇期

川満 克佳

八重山支部長 二七期

白玉 精喜

懇親会では、先輩後輩の時代は違いますが、思い出話に花が咲き、寮歌でフィナーレとなり一層の活躍を誓って散会しました。最後に学園ならびに同窓会の益々の発展を祈念して報告いたします。

(沖縄県北中城村字仲順89番地比嘉アパートA-2)

三期(生)会開催

平成二年十一月十・十一日の両日、福岡市の「KKRはかた」に北海道、



鯉洲学園沖縄支部同窓会

期を鯉洲で体験し、国家、社会、経済の激変期を乗り越えてきた仲間である。三期会(三期会同窓会)は、第一回が鯉洲学園(S55)、有馬温泉(S56)、鯉洲学園、笠間(S61)、熱海温泉(S62)、愛媛・東予(S63)、愛知・犬山(H1)と昭和六三年からは毎年開催され、今回は通算して第七回目になる。今年(平成三年度)は北陸(石川)か福井、次年度は群馬・水上で開催の予定である。

〈今回の福岡での参会者は次ぎのとおり〉

- (北海道) 佐々木正、伊藤政美 (山形) 田端敬一・同婦人 (群馬) 堤照徳 (東京) 金子純、和田文雄、杉沢泉 (神奈川) 宮地三郎、岡川五月、五明達夫、東宏 (新潟) 斉藤喜代治 (石川) 野崎孜、霜下孝三・同婦人、番場敏男・同婦人 (福井) 村上五月 (静岡) 川島圭一・同婦人、加藤昭三郎 (愛知) 渡辺悦太郎・同婦人、宮島美智男 (三重) 武岡勇、奥野嶽 (大阪) 野村昭吉・同婦人 (島根) 鎌田辰三・同婦人 (広島) 石原直、鎌倉功 (山口) 藤永一憲、内海一潔 (高知) 広見汎 (徳島) 山崎佳貞 (福岡) 佐野治人、上尾由憲、坂田秀雄、村田芳郎 (佐賀) 江頭茂喜、橋口俊規、青木崇 (熊本) 鹿江琢史
- 以上四五名(うち婦人七名)

東北、北陸などからの遠来者を含め、総勢四五名の参集得て平成二年度の総会と懇親会が盛大に挙行された。三期生は昭和二〇年四月から二三年三月までの三年間、戦中・戦後の混乱

近況報告

中国三江平原農業統合試験場

根岸久雄

通信事務の手違いで、返事が遅れて恐れ入ります。

昨年九月帰国予定でしたが、国際協力事業団の援助期間の延長に伴い残留しております。

日本は、新緑の頃と思いますが、三江平原は、やっつて春のきざしが見え始めたところです。5月1日には、25cmの雪に見舞われました。

三江平原は、中国の北東隅、黒龍江、ウスリー江に挟まれた、11万平方km(北海道十九州)ほどの地域です。地勢平坦で、雨量は多くないのですが、湿地が多く、人煙まれな平原です。夏の陽盛りは、東京なみの温度になりますが、冬は大地が2mちかく凍ります。いま開発の研究を手伝っておりますが、このまま残しておきたい自然です。

生活拠点は、400kmはなれた三百万都市哈尔滨です。この街には、二十を越える民族が住んでいます。それぞれが、それぞれの習慣にしたがって、なんのわだかまりもなく生活しています。人びとは陽気で、おしゃれで、おしゃべりで、そして親切です。少しでも言葉の理解を示せば際限なく話し続

けます。「効率」などというものは全く考えないようです。もし、再び会ったときは、百年の知己のように遇してくれます。

生活物質は、かなり潤沢に出回っています。衣類は、原宿も顔負けの斬新品、装身具も世界のものや並んでいません。北の国の真冬でも、貯蔵性の野菜、葉ものほかに、西瓜、菜豆、えん豆、パイン、バナナ、柑橘類が売られています。肉、玉子も十分にありま

ます。肉、玉子も十分にあります。日本人好みの鮮魚はありませんが、大きな淡水魚はあります。生活習慣の違いにとまどうこともありませんが、生活困難というほどのことはありません。しかし、哈尔滨の町はずれには「悪魔の飽食」で知られた関東軍七三一部隊跡があります。これを題材にした、ドキュメント風ドラマがテレビ放映されました。幼稚園児の劇にも日本憲兵との戦いを扱ったものがありました。ソ連参戦による開拓団の潰滅、彷徨、「集団自決」という形式の弱者処理や、託児、婦女残留のことも耳にします。寄るべなく望郷の想いを抱きなが

ら、外人養老院に臥して、中国姑娘に全ての世話を受けている人が、今もこの哈尔滨におります。フィルム編集のように切りすてられないのが歴史のよ

うです。北京事件は遠雷を聞くようなものでした。学生のデモが二、三度あっただけです。農民は畑仕事におわれておりました。学生の「大いなる働き場をよこせ！」の気持は解かるが、それを不十分にしているのは、他ならぬ彼らの親達です。学生の大部分は幹部の子孫です。農民は、土地を得たが、都市への移住を禁じられております。その子弟は、就学の志があつても、その機会を得ることは極めて困難です。知識階級は、世襲です。

今度の革命で、農民兵の血によって外国勢力を駆逐しました。民族共和も基本的に達成しました。私的な農奴制度も消失しました。しかし、いつの間にか知識階級が主人公になり、農・工階級との格差は拡大し、かつ、強固なものになったようです。

私たちが寄寓している研究所は、知識階級の多い社会です。家譜、出身校、学歴、加えるコネによって、将来が決定されており、それによる階層区分が存在します。宿舍配分等は、それに依つて行われていきます。

職分は上級、中級、初級に分けられ、その下に「労働者」がおかれております。調査実験は初級者の指令により、

労働者が「指示されただけの仕事をする」といえます。上級者は、外国文献引用の多い名文調の論文創作に専念しております。論文には、データや図表は極めて少なく、図表に至ってはきわめてお粗末です。思うところは、「国際的有名人」に自己陶醉することであつて、「三江平原開発」などという泥くさいことなどは微塵もありません。

これが学生の先輩の行状です。農民が畑仕事にかまけていたのは、雲の上の「知識階級」の内紛としか感じていなかったからでしょう。いや、無この殺りくに遭つた農民出身兵士への鎮魂だったのかもしれない。

革命未了の感があります。日日は、カウンターパートと研究問題の摘出、既往研究の検案整理、論理構築、思考実験、実験計画、実験装置・機器の調達、(製作)、実験遂行、データ処理、シミュレーション等々を進めております。実行する者は徐々にへり、一、二名になります。これは不満でもありますが、安心でもあります。十二億もの中国人が日本人のように動きだしたら、日本がすつ飛んでしま

います。負けるのはピンポンぐらゐに止めておきたいと思つております。そんな今この頃です。近況報告をかねて、ご返事の遅れたおわびと致します。末筆ながら御健勝をお祈りいたします。 敬白

学園人事について

新年度を迎えるに当たり、今回は久しぶりに大幅な人事異動がありました。ご報告すると共に皆様のご支援ご協力をお願い致します。

◎退職(三・三一)

丸川慎三(五四・五以来)

池田信一(六二・四以来)

塙 明子(六三・四以来)

◎採用(四・一)

山本昌弘 常勤講師(農業経営)

清水政浩 技師(酪農場)

丸川慎三 嘱託教授(園芸)

門間要吉 嘱託教授(専攻科卒論)

◎新人事(四・一、係長以上)

教務部 部長 安藤義道

参与 西村典夫

普及教育係 浦井義郎

学生生活部 部長 中野光志

学生係長 津田 渉

農場業務総括部 部長 砂田義雄

園芸農場 田山和美

果樹係長 及川隆光

施設園芸係長 菊地 崇

露地野菜係長 小沼和重

作物係長 山本英治

酪農場長 高橋隆三

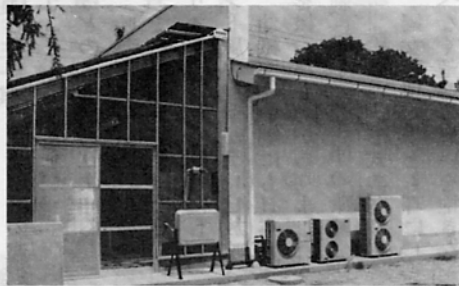
参与 藤枝 進

飼料係長 佐藤和夫

酪農係長 広瀬勇祐

肉畜係長

生物工学実習棟竣工



生物工学実習施設は、写真の通り去る三月末に完成しました。立派な内部施設も整い、国庫助成の対象にならない小物も百五、六〇万円買足し、六月から学生実験が始まっています。

学園購買部の新築

現在の学園購買部は、建てものが古く修繕もかなわなくなったので、今年七月に取壊し、岩間街道に面して新築することにしました。新築場所は現在の購買部北側の池(葦が生えていた)を二年前に埋立ててあった所に決まり、五月二〇日より工事が始まりました。建物の大きさは、一八坪。運営方針は、当面次ぎの通りとしております。一、これまでの学園学生、職員及び家族の為の施設としてし正確は、これ

ら利用者の意見を聞いて更に充実させる。

二、購買部独自の製造販売は中止する。これまで一般にも大変人気があり卒業生にとって懐かしい石窯で焼いたパン(ドイツ風パン)や、松川煎餅、コッペパン、ロールパン、クロワッサン、ドーナツ、ホットドック等々は技術者の停年退職で残念ながら製造を中止することになりました。

三、学園農産物の直販を行う。

農業で生産すればよい時代は終わり、これからは販売まで考える必要がありますが、学生実習に販売実習を取り入れ、消費者と生産者の相互関係の中から、将来の農業生産ひいては農業の在り方を考えさせるひとつの場とすることにしております。

四、学園農作物の加工製品を販売していく。

前号でお知らせしましたように、今年度国庫助成で畜産加工施設が出ることに決まっております。次年度以降に農産加工施設を計画しています。が、農産物に付加価値を付けて販売をして、この面からの教育効果も狙っています。

五、全国の卒業生の協力を得て、全国の農産物を扱う事も、段階的に考えることにしています。総務部では、最近国の補助金行政が厳しくなってきたことから、密かに収入増も期待しているところです。園芸

農場では、今年度から路地野菜係を独立させ、係長にベテランの職員を配置されたことであり、相互に連絡を密にして成果をあげたいと思っています。建物の大きさは、当面一八坪と小さいのですが、軌道に乗り次第増築したいと思っています。

同窓会館利用料の変更について

同窓会館(面積二百二平方米)は、鯉淵学園の創立三十周年記念事業として、昭和五三年四月に同窓会(会長和田文雄)が千七百万円で建設したもので、建物はその時点で鯉淵学園が移管を受け、総務部が管理してきました。現在の利用料はそのときに決めたもので、十三年経った今の実状に合わなくなりましたので、四月一日より次の通り改定致しました。ご了承下さい。

一泊利用料	旧	新
同窓生	千五百円	二千円
同窓生外	二千円	二千五百円
会議等利用料(半日単位)	千円	千二百円
		(千五百円)

会員名簿整理に

全会員のご協力を

一、前号で、会員名簿作成のため台帳整理のため、当方からお送りした調査カードの記入返送方をお願い致し